

## 発刊のご挨拶

根室農業改良普及センター

所長 佐藤 公之



農業をとりまく情勢は、国際化の中であって、外圧は勿論、内からの圧力も今後一層厳しくなってきました。昨年、国は環太平洋連携協定（TPP）の承認や指定団体制度の見直し問題の整理に入りました。このような情勢の中にあっても将来に向けて根室の農業を発展させていかなければなりません。

普及センターでは、毎月の生乳生産予測実績とシミュレーションをホームページで公開しています。本年度は、天候不順による粗飼料不足と、高温・多雨に伴う乳房炎の多発などが生乳生産に大きく影響し、計画乳量を達成することが難しい状況にあります。

毎年、計画乳量を達成することは農業者の所得確保につながります。計画乳量を実現させるには、過去をふりかえり粗飼料の確保量と品質、乳量と繁殖成績など昨年の実績をいろいろな角度から分析検討し、「施設」、「エサの品質」、「飼養管理」などに課題がないか、すみずみまで実態を把握することが大切です。

今回の営農改善資料では乾物摂取を高めるポイントや生産現場の実践的な優良事例についてとりまとめました。どの飼養形態とも従来から言われている基本的な事項である「牛にストレスを与えない環境」、「嗜好性の良いエサの給与」、これらを着実に実践することが生乳生産を高めます。

いずれにしても「あと一口ではなく二口」多くエサを食べさせるには、酪農家の皆さんの改善意欲と創意工夫が強く望まれるところです。是非、この冊子がお手元にとどきましたら熟読され、飼養管理に活用されますことを期待いたします。